

神戸市長の久元喜造（ひさもときぞう）でございます。神戸市外国語大学の設置者である神戸市を代表し一言ご挨拶を申し上げます。2020年度の卒業生の皆さん卒業おめでとうございます。

皆さんには本学で高い語学能力そして国際感覚を身につけられ卒業されることになりました。ぜひこの本学で学ばれた勉学の成果として色々な経験に自信を持ち、これからそれぞれの持ち場で活躍して頂きたいと思います。

コロナウィルスとの戦いも1年あまりとなりました。卒業生の皆さんにおかれましても勉強をするうえでもまた勉強と生活を両立させるうえでもいろいろな苦労が多かったのではないかと思います。また教職員の先生方におかれましては卒業生の皆さんがしっかりとこの勉学に励むことが出来るようにきめ細かな心配りをされたと承知しております。関係者の皆様方のご貢献に対しましても感謝を申し上げたいと思います。

コロナウィルスのようなこの未知の試練に直面した時私たちがとらなければならない態度は二つあると思います。一つは徹底的に考え抜くこと。想像力を徹底的に巡らして、そして考えに考え抜いて行動することだと思います。もう一つは歴史に学ぶということかもしれません。

学長の指昭博（さしあきひろ）先生のご著書「キリスト教と死」を拝読をさせて頂いたことがあります。このご著書はコロナウィルスが登場する前の、に書かれたご本ですが、キリスト教世界の人々が感染症を含む死とどのように向き合ってきたのかということが克明にかかれておりました。またエリザベス王朝において流行したペストに対して人々がどのように立ち向かったのかということも書かれておりました。

このような先人の経験は私たちに色々な示唆を与えてくれると思います。わが国では100年余り前当時スペイン風邪と呼ばれた流行性感冒インフルエンザが流行いたしました。当時先進都市であった神戸においては7000人余りが犠牲となりました。当時の神戸市政は我が国の中でも最も先進的な衛生行政を展開をしていましたが、市役所の当時の先輩の皆さんは全力でこの流行性感冒と戦ったことが記されています。私たちはそのような先人の思いを受け継ぎながら、このコロナと戦っています。

これからも全力でこの戦いを続けていきたいと思っています。コロナウィルスがいつ消えてなくなるか、それは分かりませんがいつかは必ず終わります。そしてポストコロナの時代がやってきます。私たちはその時期にどのような世界になっているのかもこれも想像しながら対応していく準備をしていく必要もあると思います。

グローバル社会がコロナによってどのように変わっていくのかも考えなければなりません。地球環境問題、あるいは地域間の格差、金融をはじめとする経済環境の激動、そういう中に皆さんは船出をされます。色々な試練が待っていると思いますけれどもぜひ我々が直面している課題、グローバル社会が直面している課題と真正面から向き合って自己実現を図り大いに活躍して頂きたいと願っております。

最後に神戸市外国語大学の設置者である神戸市は設置者としての責務を果たし教育環境の改善に最大限の努力をさせて頂くことをお約束し、お祝いのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。